

(2) 医師等派遣事業

医師等派遣事業は、海外からの要請に基づき医師等の専門家を派遣するなど、放射線被ばく者医療に関する技術指導・支援、情報の提供を行うものである。また、HICARE事業に必要な調査、連絡調整、情報収集等のためにも派遣事業を実施している。

次表は派遣先とその内容をまとめたものである。(表中のアンダーラインで表示されたものについては、HICAREのホームページに詳細が載せられている。参照：<http://www.hicare.jp/>)

年度	派遣先	派遣人数	主な用務
1991 (H3)	ロシア ウクライナ ベラルーシ	10人 (幹事、事務局、 専門家)	チェルノブイリ被ばく者治療・検診システム等の現状
	ブラジル	4人 (幹事、事務局、 専門家)	現地関係機関等との協議・調査
1992 (H4)	ロシア ウクライナ	3人 (事務局、専門家)	「チェルノブイリ原発事故の社会心理学的影響に関する国際会議」出席、現地関係機関の調査
1993 (H5)	メキシコ	1人 (専門家)	「第11回IPPNW世界大会」出席 (HICARE事業概要講演)
	ウクライナ	1人 (事務局)	「第2回チェルノブイリ笹川医療協力シンポジウム」出席、関係機関訪問
	ブラジル	5人 (幹事、事務局、 専門家)	「セシウム137放射線事故に関する第2回国際シンポジウム」出席、関係機関訪問
	イタリア	1人 (専門家)	「チェルノブイリ事故後の健康影響に関する国際ワークショップ」出席

年度	派遣先	派遣人数	主な用務
1993 (H5)	インド	1人 (幹事)	「核医学会第25回大会・印米核医学学会シンポジウム」出席、 インド放射線被ばく実態調査
1994 (H6)	ロシア	1人 (専門家)	「チェルノブイリ事故復旧作業従事者の健康問題に関する国 際諮問会議」出席、現地関係機関等の調査
	米国	2人 (幹事、事務局)	被爆50周年記念事業国際シンポジウムに係る調査
	ロシア ペラルーシ	2人 (幹事、事務局)	「第3回チェルノブイリ医療協力シンポジウム」出席、被爆50周 年記念事業国際シンポジウムに係る調査、関係機関訪問
	フランス	1人 (会長)	「IAEAパリ国際会議」出席
	フランス	2人 (幹事、事務局)	「第5回WHO REMPAN会議」出席 (HICARE活動の報告)
	米国に幹事を派遣 被爆50周年記念事業国際シンポジウム 講師依頼、関係者等訪問 期 間:1995年(平成7年) 1月6日～15日 派遣者:伊藤 千賀子 (HICARE幹事、広島原爆障害対策協議会健康管理・増進センター副所長) 他1名		
	ロシア	1人 (幹事)	ロシア臨床免疫学研究所主催「国際血液学研究会」出席、関 係機関訪問
1995 (H7)	ウクライナ	1人 (専門家)	「チェルノブイリ核災害の精神障害・その実態と予後国際会 議」出席



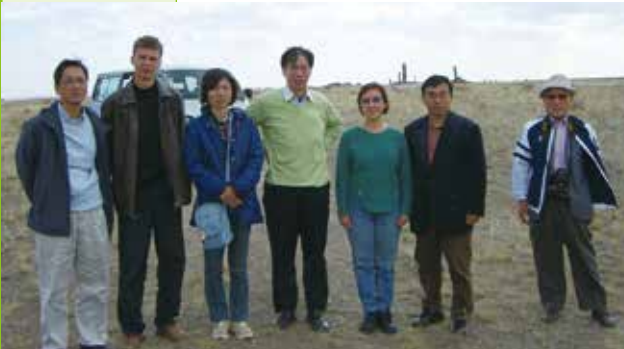
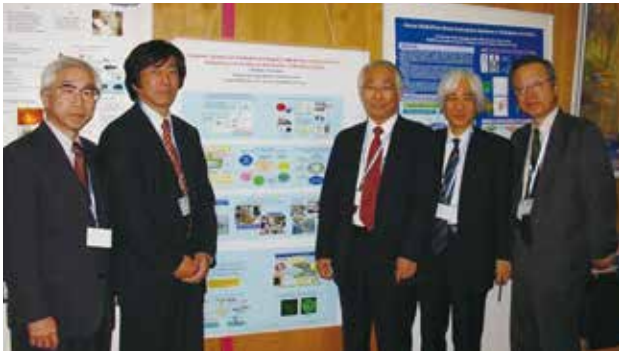
年度	派遣先	派遣人数	主な用務
1995 (H7)	米国	2人 (会長、幹事)	シヤル研究所主催第1回国際シンポジウム「広島・長崎の原爆被爆者と子供たち」出席、関係機関訪問
	ブラジル	1人 (専門家)	「国際癌登録会議」出席、関係機関訪問
	スイス ベラルーシ	4人 (幹事、事務局、 専門家)	「チェルノブイリ及びその他の放射線事故の健康影響に関する国際会議」(WHO主催、第4回チェルノブイリ医療協力シンポジウム出席、関係機関訪問
1996 (H8)	オーストリア	1人 (専門家)	「チェルノブイリ事故10周年国際会議、国際放射線防護学会第9回国際会議」出席
	スイス	1人 (幹事)	HICARE/WHO国際シンポジウム及び研修生受入事業の打合わせ
	スイス インド フィリピン	2人 (幹事、事務局)	受入研修事業についてWHO本部、WHO西太平洋地域事務局と協議
1997 (H9)	米国	1人 (幹事)	HICARE研修生の現地活動調査
	インド	1人 (会長)	研修生活動調査・面接、関係機関訪問
	ブラジル	3人 (幹事、事務局、 専門家)	「第7回WHO REMPAN会議」出席、研修生の活動状況調査
1998 (H10)	ウクライナ	1人 (専門家)	「第2回チェルノブイリ災害長期健康影響国際会議」出席
	ロシア	1人 (専門家)	「オブニンスク線量国際会議」出席、関係機関訪問

Ⅲ HICAREの主な活動状況

年度	派遣先	派遣人数	主な用務
1998 (H10)	カザフスタン	4人 (会長、幹事、 専門家)	「放射線、生体及び健康に関する第2回国際会議」出席、関係機関訪問
1999 (H11)	茨城県	9人 (事務局、専門家他)	茨城県東海村の臨界事故に対する医療等の技術支援
	カザフスタン	7人 (事務局、専門家)	被ばく者医療関係者に対する検診技術等の指導、セミパラチンスクにおける被ばく者医療の状況等の調査
2000 (H12)	イギリス	2人 (幹事)	「第8回WHO REMPAN会議」出席
	カザフスタン	2人 (専門家)	被ばく者医療関係者に対する検診技術等の指導
2001 (H13)	ウクライナ	1人 (幹事)	「第3回チェルノブイリ事故の健康被害に関する国際会議:15年の追跡結果」出席
	カザフスタン	5人 (専門家)	被ばく者医療関係者に対する検診技術等の指導
2002 (H14)	カザフスタン	5人 (専門家)	現地被ばく者医療関係者に対する技術指導等
	スイス	1人 (専門家)	「第1回職業放射線防護国際会議:電離放射線被曝から労働者を防護するために」出席
	ロシア	1人 (専門家)	「第9回WHO REMPAN会議」出席
	韓国	2人 (事務局)	HICARE事業の広報活動

年度	派遣先	派遣人数	主な用務
2003 (H15)	韓国	2人 (事務局)	研修生受入事業に係る説明
	ロシア ベラルーシ	3人 (幹事、専門家)	現地被ばく者医療関係者に対する技術指導等
2004 (H16)	ベラルーシ	6人 (専門家)	現地被ばく者医療関係者に対する技術指導等を実施
	ロシア	1人 (理事)	「第10回WHO REMPAN会議」出席
	韓国	4人 (理事、事務局、 専門家)	帰国後の医療活動等を調査
2004 (H16)	ベラルーシに会長・医師を派遣 現地被ばく者医療関係者に対する技術指導等を実施 期 間:2004年(平成16年) 10月22日～11月1日 派遣者:武市 宣雄(武市クリニック院長) 三木 安希(武市クリニック臨床検査技師) 土肥 博雄(HICARE会長、広島赤十字・原爆病院院長) 他10名 		
2005 (H17)	カザフスタン	1人 (幹事)	「カザフスタン国際反核会議」出席

Ⅲ HICAREの主な活動状況

年度	派遣先	派遣人数	主な用務
2005 (H17)	カザフスタンにHICARE幹事を派遣		
	<u>受入研修や派遣の効果を検証、研修生とのネットワークを再構築し、今後の支援のあり方を検討</u>		
期 間：2005年(平成17年)9月26日～10月3日			
派遣者：有田 健一(HICARE幹事、広島赤十字・原爆病院呼吸器科部長) 他2名			
			
			
	韓国	9人 (理事、事務局、 専門家)	<u>受入研修に関する協議、緊急被ばく医療の拠点施設とのネットワークの構築</u>
2006 (H18)	チェルノブイリ原発事故20年会議・WHO REMPAN合同会議にHICARE会長を派遣		
	<u>「チェルノブイリ20年国際会議」出席</u>		
期 間：2006年(平成18年)4月24日～28日			
派遣者：土肥 博雄 (HICARE会長、広島赤十字・原爆病院院長)			
派遣先：ウクライナ、キエフ			
			
			
	ウクライナ	1人 (理事)	<u>「チェルノブイリ原発事故20年会議・WHO REMPAN合同会議」出席</u>

年度	派遣先	派遣人数	主な用務
2006 (H18)	韓国	5人 (幹事、事務局)	受入研修に関する協議、研修生とのネットワーク強化
	米国	3人 (幹事、専門家)	受入研修に関する協議、研修生とのネットワーク強化
	モンゴル	2人 (幹事、専門家)	放射線被ばく者医療体制の調査及び今後の連携方法の協議
2007 (H19)	ベラルーシ	1人 (会長)	受入研修や派遣の効果の検証
	ブラジルでの被ばく者医療現地研修の実施 期 間:2007年(平成19年)10月8日～19日 派遣者:碓井 静照(広島県医師会会長) 土肥 博雄(HICARE会長、広島赤十字・原爆病院院長) 松村 誠(広島県医師会常任理事) 伊藤 勝陽(HICARE幹事、広島大学教授) 他3名		
			
2008 (H20)	ブラジル	1人 (会長)	研修生間のネットワーク強化、日伯医療シンポジウムにおける講演
	カザフスタン	1人 (専門家)	現地被ばく者医療関係者に対する技術指導等
	韓国	5人 (幹事、専門家、事務局)	受入れ研修に関する協議、被爆者医療・緊急被ばく医療拠点とのネットワーク強化

Ⅲ HICAREの主な活動状況

年度	派遣先	派遣人数	主な用務
2009 (H21)	<u>米国での被ばく者医療セミナー</u> 期 間:2009年(平成21年)12月2日～9日 派遣者:碓井 静照(HICARE理事、広島県医師会会長) 土肥 博雄(HICARE会長、広島赤十字・原爆病院院長) 児玉 和紀(HICARE幹事、放射線影響研究所主席研究員) 松村 誠(広島県医師会常任理事) 他2名		
		 	
		伊原純一在ロサンゼルス日本国総領事(左から5番目)を表敬訪問	
2010 (H22)	韓国	1人 (幹事)	第1回緊急被ばく医療国際会議 (KIRAMS主催)出席
	韓国	5人 (理事、幹事、事務局)	在韓被爆者医療に携わる医師等に対する効果的な研修についての協議、韓国の緊急被ばく医療拠点とのネットワーク強化のための協議等
	<u>福島第一原子力発電所事故への対応</u> <u>東日本大震災・福島第一原子力発電所の事故発生に伴う放射線量測定チームの編成・派遣</u> 期 間:2011年(平成23年)3月16日～22日 派遣者:広島赤十字・原爆病院、広島大学病院、放射線影響研究所の放射線技師、看護師等、計6人。放射線量測定機器を持参し、福島県にて、避難されている方々の放射線量の測定や、健康状態の問診等を行った。		
		 	
		上記の活動に対して「厚生労働大臣感謝状」を受領	

年度	派遣先	派遣人数	主な用務
2011 (H23)	オーストリア	6人 (会長、幹事、事務局)	IAEA・HICARE協働事業連絡会議・セミナーを開催
			米国(ハワイ州)での被ばく者医療セミナー 期 間:2012年(平成24年)2月22日～26日 内容および派遣者: 「HICAREの活動について」 :土肥 博雄 (HICARE会長、広島赤十字・原爆病院院長) 「原爆放射線の人体影響について」:児玉 和紀 (HICARE幹事、放射線影響研究所主席研究員) 「緊急被ばく医療体制及び福島第一原子力発電所事故の状況について」 :谷川 攻一 (HICARE幹事、広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授) 「在外被爆者援護行政について」 :羽田 敏明 (HICARE書記、広島県健康福祉局被爆者支援課専門員)
			 
2012 (H24)			韓国での放射線被ばく医療セミナーの開催 期 間:2013年(平成25年)2月19日～21日 派遣者:大久保 利晃(HICARE会長、放射線影響研究所理事長) 児玉 和紀(HICARE幹事、放射線影響研究所主席研究員) 谷川 攻一(HICARE幹事、広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授) 派遣先:韓国 他2名
			

年度	派遣先	派遣人数	主な用務
2013 (H25)	韓国に幹事を派遣 <u>韓国での被ばく者医療・研究機関との連携強化のための協議等</u> 期 間：2014年(平成26年)1月21日～23日 派遣者：永田 靖(HICARE幹事、広島大学病院放射線治療科教授) 藤原 佐枝子(HICARE幹事、広島原爆障害対策協議会健康管理・増進センター所長) 他3名 		
2016 (H28)	韓国に代表幹事を派遣 <u>被ばく者医療・研究機関等との連携強化、NASHIMセミナーへの参加、25周年事業への協力依頼等</u> 期 間：2016年(平成28年)9月4日～7日 派遣者：加世田 俊一 (HICARE代表幹事、広島赤十字・原爆病院副院長) 他2名  		